

和泉市都市計画マスタープラン

第3回 まちづくりワークショップ 記録

【北部・北西部地域】

日 時：平成 27 年 2 月 26 日（木） 19:00～20:45

場 所：和泉市コミュニティセンター 1 階中集会室

参加者：【北部地域】

信太中学校区 4人 富秋中学校区 4人

【北西部地域】

和泉中学校区 4人 郷荘中学校区 8人

和泉市 6人

アルパック 4人

1 開会

開会のあいさつがありました。

2 ワークショップについての説明

事務局より、本日の進め方について説明がありました。

3 専門家の先生からのお話し

田端和彦先生から、本日のグループワークのポイントについてお話がありました。

（お話しの概要）

- これまでワークショップを2回開催し、1回目は資源や課題は何か、2回目はどういうまちが理想か、自分にできることは何か、ということをお話し合ってきました。これまでの話し合いを経て、まちづくりの方針を作成しています。
- 地域の資源や課題などの一つ一つを解きほぐして方針を図面に落とし込んでいく一方で、今後どうやってまちづくりを進めていくのかについても記載しています。
- 現実の生活に根差したものであるかどうか大切であり、皆さんには、生活者の目線で内容について議論していただきたいと思っています。
- まちづくりの将来像が記載されていますが、まずはそれが皆さんの思っているまちの将来像と一致するかどうか考えていただきたいと思います。そして、方針が資源を活かし、課題を解決するものか、書いてあることが実現可能なことかどうか考えていただきたいと思います。
- ここで経験したことを他で活かせることもあると思いますので、楽しくお話ししましょう。



4 地域のまちづくり方針(案)についての説明

事務局より、地域のまちづくり方針(案)について説明がありました。

5 グループワーク

地域のまちづくり方針(案)について、意見交換を行いました。

北西部地域

【1 和泉中学校区グループでの話し合い】

(1) 感想や意見

●地域別構想全般について

- ・ワークショップの意見をもとにうまくまとめてもらっている
- ・ただし、内容については、他でも通用しそうな記載が多いことが少し気になる

●北西部の特徴について

- ・和泉府中駅は整備され、岸和田市など近隣市民からうらやましがられているほど
- ・槇尾川など緑にはとても恵まれている
- ・街路樹としてオリーブを植えているところがあるが、採れた実の活用を考えてはどうか

●駅前の賑わいづくりについて

- ・駅を中心として利用者の交通利便性を高めてほしい
- ・交通網が一部では時代に合っていないところがある
- ・和泉府中から市役所など移動しやすくするにはどうしたらいいか、動線の整理が必要である
- ・託児所の整備など、子育て世代のニーズに対応した駅前の活性化が必要

●緑を活かした取組みについて

- ・槇尾川沿いや黒鳥山公園を散策、ウォーキングする人が多い
- ・これらを含めたウォーキングコースを設定し、PRしてはどうか
- ・緑の少ないところに、緑を増やす取組みが考えられないか

●安全性を高める取組みについて

- ・ハザードマップの更新が必要
- ・防災の観点から、避難所となる学校で井戸を掘ってはどうか

●まちづくりを進めるときの視点について

- ・若い世代を巻き込むまちづくりの仕掛けが大事
- ・市外との交流が大切

【2 郷荘中学校区グループでの話し合い】

(1) 感想や意見

●地域別構想全体について

- ・ワークショップの結果を踏まえてあり、内容として納得できるものである
- ・長期的な理想を書くだけでなく、道路の問題など現在地域の人が困っている、直面している課題についても、しっかりと記載してほしい
- ・コミュニティの課題など、行政だけで取り組むことのできない問題は、住民が主体となって解決していく必要がある

●幅の狭い道について

- ・拡幅という記載はあるが、拡幅は時間がかかり難しいのではないか
- ・地域の住民が一番問題に感じているもので、もう少しクローズアップしてほしい
- ・都市計画道路が本当にできるのか。岸和田南海線ができれば、地域は元気になる

●資源について

- ・「軽部池」は、奈良時代の区画整理によってできたもので、歴史的な資源である
- ・花の栽培風景なども資源である
- ・最近古墳が発見されて、現在文化財振興課とともに村の目玉としている
- ・文化的な資源は大切にしていきたい
- ・地域の産業を活用するような記載はできないか

●コミュニティについて

- ・世代間交流が地域の課題である
- ・コミュニティについては、地域で考えていけないといけない

(2) その他、質問など

●中心市街地について

- ・この地域が中心市街地といえるのか
→市役所など行政の機関が集中していることから、中心市街地としている
- ・再開発事業は完成したのか
→事業としては終了している
→テナントの充実などソフト面が今後の課題として残っている

北部地域

【3 信太中学校区グループでの話し合い】

(1) 感想や意見

●地域別構想全体について

- ・「オールドタウン化」という言葉がよく出てくるが、「オールドタウン化」の何が問題なのか書く必要があると思う。市民みんながわかるように、説明を丁寧に書いてほしい

●北部リージョンセンターの利用について

- ・北部リージョンセンターは地域の活動拠点になり得るのか
- ・図書館やいろいろな教室ができることはいいと思う
- ・教室などを借りる費用が高いのは気になるが、利用できるのを住民みんなが楽しみにしている
- ・防災のときにどのような使い方をするのか。これまで使ってきた所との役割分担をはっきりさせて、市民に知らせることが必要

●北信太駅前の賑わいづくりについて

- ・シャッター通りとなっていて閑散としている
- ・大掛かりな整備をするのではなく、閑散としていることを利用するようなことはできないか
- ・日常の買い物ができない、タクシー乗り場がない、バス停が遠いのは大変不便。最低限の整備は必要
- ・駅の横のパチンコ店を何とかできないか

●幅の狭い道について

- ・一軒一軒の敷地が狭い場所では、建物をセットバックすることは難しいのではないか

●幹線道路の整備について

- ・都市計画道路（大阪岸和田南海線）の整備は早急に進めてほしい

●空き家への対処について

- ・空き家を若い人が安く借りることができるようにして、その代わりに自治会の活動に参加してもらおうようにするのはどうか
- ・高齢者のために、団地にエレベーターを設置することは必須だと思う

●歴史資源について

- ・貴重な歴史資源がたくさんあるのに、知らない人が多いのは残念
- ・みんなが資源であることに気付き、大事にしたいと思うことが大切
- ・歴史資源についての情報発信や、歴史について詳しい人が話す場として北部リージョンセンターを使うのはどうか

- ・葛葉稻荷神社には、以前縁日のようにお店が建っていたが、そのような賑わいを生み出すことはできないか

【4 富秋中学校区グループでの話し合い】

(1) 感想や意見

●地域の主な資源について

- ・表に記載されている他に、「大阪市立信太山青少年野外活動センター」と「丸笠古墳」を追加してはどうか。信太山青少年野外活動センターは和泉市の施設ではないが、防災などの面でも活用できるかもしれない

●幅の狭い道について

- ・幅が狭い上に、大きな石が置いてあり、自転車で通るのも怖い場所がある
- ・建物をセットバックして道幅を広げると言っても、相当な時間がかかるだろう
- ・小栗街道沿いなどは大きなお屋敷が残っていて、それは景観として大切だと思うので、なんでも壊せばいいというものではない。景観と防災の両方に配慮して進めてほしい

●信太山丘陵市有地について

- ・観光地化して貴重な資源を荒らしてしまうことなく整備するというのは、バランスが難しいと思うが、保全に向けて気を付けて整備してほしい

●地域のコミュニティについて

- ・昔からの集落内には今でもつながりがあり、お葬式などは協力して行っている
- ・新しい住宅地や、中でも引っ越してきた人たちの中には、なかなかコミュニティが育たない。年に1回の溝掃除で、強制的に顔を合わせるのが唯一のつながり。大した話はしないが地域にどんな人がいるのか知るいいチャンスになっている
- ・まちづくり方針にも書いてあるが、とにかく住民が集まる機会をつくるのが大切

●空き家への対処について

- ・いま国も空き家対策に乗り出そうとしている。倒壊寸前の危険なものもあつたりするので、市としても対策を考えてほしい

●高齢者の見守り方について

- ・郵便受けに新聞がたまっていないかどうか、近所で見守るなどの取り組みが大切
- ・その他にも、ゴミ出しをしていないお宅がないかどうか、ゴミの回収事業者が気を付けるなどの取り組みができないか

(2) その他、質問など

●市営住宅はどうしていくのか

→優先順位をつけて、順次建替えていく

6 グループ別発表

各グループで出た意見の概要を紹介し、全体で共有しました。

7 専門家の先生からのコメント

意見の総括と、都市計画マスタープランと協働のまちづくりについて、お話をいただきました。

<先生のコメント・お話し>

- ・風景という視点が抜けているという意見が出ていたのは、おもしろい指摘だと思います。風景は住民と一緒につくっていくものだという意見も出ていました。生活者の視点からみた時に、こういった意見が出てくるのは、とても大切なことだと思います。
- ・和泉市には文化的な背景が蓄積されていて、それが風景として表れているということなので、壊さないことが大切だと思います。
- ・全体として、まちづくりの方針の具体的なところに話がいていた印象を受けました。書いたことが本当にできるかどうかということに意見が出ていて、このことは住民皆さんが議論しなければわからないことなので、次につながる議論ができたと思います。

8 閉会

今後の予定について、事務局から説明がありました。今回いただいたご意見を踏まえながら引き続き作業を進め、夏ごろをめどにパブリックコメント等の手続きに入ります。

以 上

和泉市都市計画マスタープラン

第3回 まちづくりワークショップ 記録

【中部地域】

日 時：平成 27 年 3 月 3 日（火） 19:00～21:00

場 所：和泉シティプラザ 地下 1 階多目的室

参加者：【中部地域】

北池田中学校区 6人 南池田中学校区 6人 石尾中学校区 7人

光明台中学校区 6人 南松尾中学校区 2人

大阪市立大学大学院工学研究科 准教授 嘉名光市先生

和泉市 7人

アルパック 5人

1 開会

開会のあいさつがありました。

2 ワークショップについての説明

事務局より、本日の進め方について説明がありました。

3 専門家の先生からのお話し

嘉名光市先生から、本日のグループワークのポイントについてお話がありました。

（お話し概要）

- 皆さんにこれからお話していただきたいのは、まずはこれまでのワークショップで自分が出した意見が方針の中に盛り込まれているかということです。
- 中部地域は、他の地域と比べて都市計画の背骨となる道路や公園、公共施設が整っていますが、それだけでは地域はよくなりません。生活者の視点で、日々の暮らしの中で足りないと感じる部分があればお話いただければと思います。
- 集落は背骨の部分は整っていませんが、それをカバーするコミュニティがしっかりとしています。中部地域のようにニュータウンなど新しい住宅地が多い地域では、地域の問題をどのように解決していけばよいかを考えどころになってくると思います。
- ワークショップの際によくお話しているのですが、何かを実現するためには賛同者を増やすことが大切です。皆さんの中で「やりましょう」という声が大きくなれば、行政も動くと思います。皆さん一人一人に意見を言っていただき、活発な議論となってほしいと思います。



4 地域のまちづくり方針(案)についての説明

事務局より、地域のまちづくり方針（案）について説明がありました。

5 グループワーク

地域のまちづくり方針（案）について、意見交換を行いました。

中部地域

【1 北池田中学校区グループでの話し合い】

(1) 感想や意見

●地域別構想全体について

- ・ だいたいワークショップで話し合った内容は盛り込まれているが、全ての方針においてもっと踏み込んで書いてほしかった

●オールドタウン化について

- ・ オールドタウン化対策として、具体的にどういふことをするのかあまり書かれていない
- ・ 子育て支援を充実させたり、世代間交流ができるような仕組みを考えることが大切
- ・ 中部地域は比較的子育て世代が入ってきてきているが、それが継続し、次の世代も住み続けてくれるといい

●交通について

- ・ 和泉中央駅前が車が混雑し、横断歩道も少ないため危険である。歩行者の安全確保のため、歩車分離は必ず実現してほしい
- ・ 自転車が車道を通り、危ないと感じる。自転車道路を確保することが必要
- ・ 幅の狭い道路を拡幅するのは、避難路の確保という目的もあるが、日常の安全確保という目的の方が大きいのではないか
- ・ バスの本数が少なく利用しにくいいため、あまり利用する人がいない区間がある

●親水空間について

- ・ 槇尾川といぶき野の間に遊歩道ができていて、人がよく通っているが、一部に竹藪があり、不法投棄が進む心配がある
- ・ 川岸に下りることができるようにし、お年寄りがアクティブに活動できるような場とするなど、何か利用できるようにしてほしい

●街灯について

- ・ 中部地域は、他の地域と比べて街灯がきちんと設置されているところが多いが、暗いと感じる場所もある

●その他

- ・ ららぽーとが最近できたことにより状況が少し変わった。和泉中央駅前の車の混雑がさらに

ひどくなり、テクノステージの交通利便性が悪くなった

(2) その他、質問など

●市街化区域での空き家対策は考えているのか

→ニュータウンでも空き家対策として制度の検討をしている

【2 南池田中学校区グループでの話し合い】

(1) 感想や意見

●将来像について

- ・住民としては、子どもたちが仕事を求めて市外へ出て行ってしまふことに対する危機感が強い。オールドタウン化がどんどん進んでいってしまう。子どもが健やかに成長できる地域として、将来も持続可能なまちにしていきたい
- ・中部地域のこの辺りのいいところは、自然が身近にあって、かつ住みやすいところ。それを武器に魅力を若い人に知ってもらって、和泉市に留まってほしい。また、新しい住民にもPRして入ってきてもらいたい
- ・それらが伝わるように、将来像を工夫できないか
- ・これからは都市間競争が激しくなる。計画として内容が網羅されているのはいいが、強弱や優先順位を付けて、確実に実現していけるようにしてほしい

●働く場について

- ・住みやすいまちではあるが、働く場が近くにないため、子どもたちの世代は和泉市に住んでいない人が多い。市内で起業を支援するなど、働く場を確保してはどうか。仕事の内容もIT化し変わってきているので、それも考慮して対策してはどうか
- ・桃山学院大学があるので、その卒業生が和泉市内で就職し定住してくれるように、アピールしてはどうか
- ・和泉市に住みながら大阪方面に働きに行きやすくなるように、交通面の利便性を良くしてほしい

●地域のコミュニティについて

- ・住民の数は増えているが、まちや地域に関心のない人が増えてきていると思う。特に「住みやすさ」だけを求めて移り住んだ人は、受け身の姿勢のようだ。そういう人が増えても、地域の運営が行き詰まると思う
- ・自治会によっては、新しく入ってきた人に遠慮なくまちに関わってもらうため役員になってもらうなど、どんどん開いていこうとしている地区もある

●土地利用について

- ・集落では、田んぼがどんどん開発されており、そのスピードが速い。行政による対策も必要と思う

●協働のまちづくりについて

- ・行政だけでまちづくりをしていくのではなく、地域もまちづくりに取り組む時代になっていると思う。事業の強弱や優先順位を付ける時には、私たちの役割も示してほしい

●その他

- ・子育てについて、地域で子育てや教育を応援することは大切
- ・住民が組織をつくって避難訓練、という箇所（方針コの1つ目）は、かなり具体的。協働のまちづくりのところなので、敢えて詳しく書いてあるのかもしれないが

【3 石尾中学校区グループでの話し合い】

(1) 感想や意見

●準工業地域などの土地の使い方について

- ・のぞみ野にある準工業地域の今後の土地利用が気になる。協議会を立ち上げて検討を始めているがどうなるか不安である。望ましくない施設が立たないように規制・ルールが必要である
- ・準工業地域ではないが、緑ヶ丘のなかにある山林部分で住宅地の開発計画が持ち上がっているらしい。今のところ地元から反対意見が上がっているわけではないが、様々な事態を想定しておくことは必要なのかもしれない

●オールドタウンについて

- ・オールドタウン化への対策にはバス路線の充実が必要不可欠
- ・新しく開発された住宅地と昔に開発された住宅地ではコンセプトが違う。当然、若い人は新しい住宅地のコンセプトに惹かれて選ぶ。オールドタウン化した住宅地に若い人を呼ぶには何か違う魅力が必要だろう（それが交通利便性等かもしれない）

●人が集まる場が必要

- ・誰もが集え、交流の場となる大きな公園が欲しい
- ・新しくつくるのが難しければ遊休農地などを活用して子どもの遊び場に出来ないだろうか

●新旧住民の関係性

- ・地域のつながりと言っても、自治会に入らないマンション群が増加している。どうしたら良いのか
- ・新旧住民ではそもそも生活様式が異なる。また、マンション組と戸建て住宅地組との間には意識のギャップもある

●地区ごとに考えていくことが必要

- ・中部地域でも場所によって全く問題意識が異なるので、地域別構想の単位でものごとを考えるのではなく、もっと個別の地区単位で考えないとダメ
- ・他人と関係を構築する努力をしながらまちづくりに取り組むことが大事

●もう少し具体的に記載すべき

- ・全体的に抽象的な表現が多い（特に、市民と行政の協働に関する部分の記述）
- ・要するに「市は何をするのか」「住民は何をすべきか」が分かる具体的な記述が欲しい
- ・今の書き方では、この部分については「住民がやってね」と言われている気がする

●その他

- ・緑ヶ丘では災害時の避難訓練等を実施している。道路・公園等の整備も含めて安全なまちづくりも大切である

【4 光明台中学校区グループでの話し合い】

(1) 感想や意見

●オールドタウン化への取り組み主体と具体的な対応について

- ・「オールドタウン化対策を検討します」とあるが、誰がどのように取り組むのかが分りづらい
- ・居住者の若返りを図ることは良いが、現在高齢者が多い実態を踏まえ、高齢者が住みやすい住宅づくりを進めて欲しい（オールドタウンであることを受け入れた方向転換）
- ・丘陵地であるため坂があるのは仕方ないが、休み休み歩ける道作りなど対応は考えられるのではないかと（参考：三軒茶屋の辻広場）
- ・暮らしやすいまちにするため、ソフト面の充実も必要（バス等移動手段の充実など）
- ・和泉府中駅周辺に新しい住宅が供給され、子ども世代がそちらに移るケースがある。新居住者の入居の促進に加え、定住支援の策も必要である
- ・UR が持っている住宅が多い。UR に対する意見をまとめたり、一緒に考える場が必要ではないか

●光明池等公園の活用について

- ・現在、みどり豊かでよい環境のある光明池周辺であるが、季節感が感じられるよう花を植えるなどの取り組みをすれば、さらに良くなる
- ・使い方のルールが厳しく、子どもの環境学習などもなかなか行えない。すばらしい環境の公園や水辺を最大限に市民が享受できるルールの緩和が必要である
- ・上記については、管理者である土地改良区と住民で話し合いの機会を持つなど、まずは意向を伝える取り組みが考えられる

●コミュニティの醸成・意見共有の場づくりについて

- ・住民同士のコミュニケーションの充実が必要である
- ・まちの改善すべき点はそれぞれあると思うが、住民がそれらを共有できる「地元のはなしをする場（機会）」が必要である
- ・今回のワークショップは良い機会であるが、限られた者だけが参加するのではなく、みんなが気軽に出てこられる場がほしい

【5 南松尾中学校区グループでの話し合い】

(1) 感想や意見

●バスネットワーク

- ・和泉中央駅周辺やニュータウン内はバスも便利だが、その外側の集落部分になると急に不便になる。最近は道路整備も進んでいるので、バスのルートやバス停の位置などの工夫ができるともっと便利になると思う
- ・集落部は道路が狭いので大型のバスは入れない。道を拡げるのは簡単ではなく、路線バスの延長だけを考えていても実現できない
- ・「めぐ〜る号」のような小型車両の利用など、バスネットワークの検討の中で具体的に検討していけばいい
- ・少し離れたバス停で乗り降りして、自宅までの間を歩くことで、健康にもいいし、四季を楽しめるといった効用もある

●生活拠点

- ・和泉中央駅に出るまでが不便だが、出たしまえば、生活拠点として申し分ない
- ・和泉府中駅周辺にわざわざ行くこともない

●川の自然、子育て環境

- ・松尾川は、昔は今よりもっときれいだった。今でもホタルが飛ぶほどきれい。子どもも喜ぶし川に親しむきっかけになる。集落から出た人の中にもホタルを見に来る人もいる
- ・川にたくさんの鯉のぼりをつるすイベントをしている。誰が主にやっているのかは分からないが、川に親しむイベントして楽しみにしている。(ボランティアか、川の愛護会か、子供会か?)
- ・川で遊ぶのは、今は水の事故も心配。例えば大人と一緒に川での遊び方を教える(環境学習会)のもよい。昔遊びを高齢者が子どもたちに教えるのも双方にメリットがあると言われるから、その一環で取り組めば広がるかも
- ・まずは学校開放。子ども同士でも多世代での遊びや遊びの中での学びが継承できれば
- ・自然を生かし、地域で子育てを支援している地域になれば、そこに住みやすさを感じる人も出てくると思う

●防災

- ・水害以外にも、大雨時の斜面地の土砂崩れも心配はある
- ・斜面地では側溝に水が急速に集まってくるので、会所の掃除を大雨の前にはしておかないと溢れてしまう。昔は町内総出で一斉清掃をしていたが、参加が少なくなり今では個人任せになっている
- ・個人の問題ではないが、何もかも行政でやることもできない。例えば、家の前は個人で掃除するが、上げた泥やごみは市がまとめて回収に来てくれるとか、ケースバイケースで協働のあり方を考えていってはどうか
- ・働きに出るなどのため屋間に集落にいる人が少なくなってしまったので、消防団のなり手も

減っている

●「住み心地のいいまち」の実現に向けて

- やはり地域の人口が増えて欲しい。そのために、生活上の不便を解消することが重要
- 「祭り」が地域への引力になるのでは。少なくとも祭りを楽しみに帰省はしてくる
- 「幼・小・中」とークラスずつだが、みんな顔見知りだし仲良し。小中一体の運動会も、親の同窓会みたいで楽しい。さらに、地域での子ども見守りにも取り組めば、住みやすいまちとってもらえるのでは
- 遊休農地を小分けにして市民農園のように貸し出すことで、都市農村交流にもなる
- 「祭り」や「仲良し学校」、「地域で子育て」、「市民農園」などは、今、改めて注目されている良い点なので、地域でそれらを強化してアピールしていけば住みよいまちになるのでは

(2) その他、質問など

- 「ららぽーと」の開業で、人も車も増えている。集落の近くでも土地を駐車場に利用する人が増えるなどまちが変わってきている

6 グループ別発表

各グループで出た意見の概要を紹介し、全体で共有しました。

7 専門家の先生からのコメント

意見の総括と、都市計画マスタープランと協働のまちづくりについて、お話をいただきました。

<先生のコメント・お話し>

- 話し合いの中で、将来像にインパクトがないというご意見がありました。「住み心地」というと、ニュータウンの緑があり、きれいな住環境を連想しますが、皆さんの話し合いを聞いていて、それだけでは語りつくせないまちの魅力があると思いました。「暮らし」というキーワードにした方がよいのではないのでしょうか。
- また、「仕事」というテーマも出ていましたが、これはニュータウン再生を考えると無視できないテーマです。暮らし全体を支えるような豊かなまちにしていくために、次のステップアップを目指していこうという方向性が、話し合いの中で浮かび上がってきたと思います。
- 世代間交流や地域コミュニティに対しても皆さん問題意識を持っていて、自ら工夫して何とかしようとしていると感じました。実現に向けた次のアクションにつながる部分もしっかり書き込めるとよいと思います。

8 閉会

今後の予定について、事務局から説明がありました。今回いただいたご意見を踏まえながら引き続き作業を進め、夏ごろをめどにパブリックコメント等の手続きに入ります。

以上

和泉市都市計画マスタープラン

第3回 まちづくりワークショップ 記録

【南部地域】

日 時：平成 27 年 3 月 4 日（水） 19:00～21:00
場 所：和泉市南部リージョンセンター 2階大会議室
参加者：【南部地域】

槇尾中学校区 20人

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授 下村泰彦先生

和泉市 6人

アルパック 3人

1 開会

開会のあいさつがありました。

2 ワークショップについての説明

事務局より、本日の進め方について説明がありました。

3 専門家の先生からのお話し

下村泰彦先生から、本日のグループワークのポイントについてお話がありました。

（お話し概要）

- これまで、自分たちが住む身近な地域を将来 10 年後にどのようなまちにするのかについて、話し合ってきました。
- 今回は、皆さんが前回までにお話しいただいた内容が大体組み込んでいるのか、それとも抜けているのか、その辺りをじっくりと吟味して頂ければと思います。
- このごろ「協働」という言葉をよく耳にしますが、20 年前には使われていなかったと思います。英語であれば、「パートナーシップ」のことで、市や事業主、住んでいる方が一緒になってまちをつくっていくということです。自分たちでまちづくりをしていこうということが全国的に広がって来ており、それを受けて今回のマスタープランは、「みんなでやっていきましょう」という色合いが強くなっています。
- 今回の話し合いでは、「自分たちの思っていることが書かれているか」ということとあわせて、できれば「これからどうやってみんなでやっていこうか」ということも踏み込んでお話ししていただけたらと思います。



4 地域のまちづくり方針(案)についての説明

事務局より、地域のまちづくり方針（案）について説明がありました。

5 グループワーク

地域のまちづくり方針（案）について、意見交換を行いました。

南部地域

【1 槇尾中学校区グループでの話し合い】グループ1

●農業の活性化について

- ・もう少し踏み込んだ書き方は出来ないか。方向性だけでもはっきりと記載してほしい
- ・観光振興だけでは限界がある。兼業でも農家が続けられるように、計画していくべき
- ・この地域は、平地が少ない。農業が継続できるように、面的な整備が必要である
- ・耕作放棄地が、竹やぶになっている。活用を図りたい
- ・国道 170 号の沿道では、農地の区画整理をするべきである。やる気のある人がいても農業基盤が整っていないと効率的な農業ができない

→本来は農業振興計画等で検討すべき事項であるが、南部地域では農業と暮らしが密接につながっているので、縦割りでは済まない。都市計画の範囲でどこまで詳細化して書けるか検討する（事務局）

●地域の主な資源について

- ・記載がある寺社は、地元住民の感覚では、なじみが薄い。天台宗のお寺が多いが、地元の人には、ほとんどが真言宗である。鳳林寺よりも満願寺の方が地域に親しまれている
- ・横山にあるアケ寺や、男乃宇刀神社の方が、地元の人に親しまれている

●市街化調整区域について

- ・市街化調整区域は市街化を抑制する地域で、その地域の中で豊かな生活になれるのか。トイシや倉庫をつくろうとしても、許可が下りない。分家でさえ自由に建てられない
- ・若者が1ターンで兼業農家をするなど、様々な生き方を許容できるよう地目変更などの規制を緩和してほしい

→市街化調整区域としての規制もあるが、それ以前に農地転用の規制が強い。農地法の緩和はかなりハードルが高いが、問題意識としては理解する（事務局）

- ・規制緩和の方向性として、例えば、幹線道路沿い(170号)には沿道施設（研究施設や近隣に迷惑をかけない工場、サービス施設など）を認める、集落では人口維持につながるように住宅を建てやすくする、といった方向が望ましいのではないか

●地域コミュニティについて

- ・老人会や婦人会など、地域のコミュニティが存続できないようになってきている。地元での活動はみんなやる気があるが、全市の会議などに引っ張り出されるのが面倒
- ・若者が住み続けられるような環境整備が大切

- ・まずは子育て環境を整えることが大切ではないか
- ・農業ばかりの話ではなく、他分野との交流、話し合いも大切
- ・若者世代など、他世代の交流を通して考えていきたい

●先見性、戦略性について

- ・40年前、先見性のある人がミカンを育てると決めて、この村は発展してきた。その後は繊維などの産業で村を維持してきた
- ・10年後、20年後を見据えて、何を大切にしていくか、何に取り組んでいくべきかじっくりと考えないといけない

(2) その他、質問など

●市街化調整区域

- ・市街化を抑制する地域であるが、開発等の規制・誘導とはどういう趣旨か。結局どちらを向いているのか。また、「検討します」では具体性がない

→市街化調整区域なので、都市計画法上、「開発する」とは記載できないが、現在人口減少が続いている中、元の人口程度を上限に住宅を建てられるように緩和していきたいと考えている。ただし、現状は具体の制度がないので、規制緩和と制度づくりから検討をしていく必要があるので、「検討します」としている（事務局）

【2 槇尾中学校区グループでの話し合い】グループ2

(1) 感想や意見

●方向性

- ・静かな暮らしができ、基本的には住みやすい地域
- ・これからは高齢者が増えていく。新しい人に入ってきてもらうのも大切だが、高齢者が不便さを理由に出て行かないで済むようにしてほしい

●資源について

- ・父鬼の白川や、側川のハイキングコース入口近くにある滝は、資源と言える

●農林業について

- ・農業だけでなく、林業も含めて活性化してほしい
- ・林業の講習会・研修会は平日に開催していることが多く、今別の仕事をしている人は参加しにくい。それを考慮して休日に開催するなどしてほしい
- ・田畑や家の近くに猪が来て、野菜などは食べられてしまう。また笹が茂るので手入れや管理をしたいが、山あいの田畑はアクセスする道路がなく、管理のために通うのが難しい（特に大野や父鬼）。必要な道路を整備してほしい

●学校について

- ・小学校は、地域のつながりの中心。地元の笹踊りを小学生が練習するなど、地域学習も採り

入れている。児童数は少ないが、小学校はなくならないでほしい

●自然を活かしたレクリエーションについて

- ダイヤモンドトレールを、現在の終点榎尾山から七越峠にかけて延長してほしい。眺めがいいので
- ハイキングを楽しむために、トイレを備えた避難小屋があればいいと思う
- 自転車に乗る人が訪れるようになっている。車に自転車を積んで来るので、駐車できるスペースがあればいい

●南部リージョンセンターについて

- 「観光・交流の拠点」と書いてあるが、食事や土産物販売の機能がないのが現状で、観光化するためにはこれらは重要ではないか
- 地域住民のためになっているかと言えば、飲食ができないこともあり、住民が利用していない。貸館と産直だけでは、住民からすると利用しにくい
- 場所が集落から遠く、車が必要で、住民が行きにくい
- 必要な機能について根本的に検討してほしい
- 今は使い勝手が良くないが、リージョンセンターがレクリエーションの拠点になればいいのではないか（シャワーや駐車場）

●交通について

- 終バスを遅くしてほしい。また、ららぽーとを回る路線にすれば、若い人も利用しやすいのではないか
- バスについては住民アンケートを取ったところで、これから地域と行政が話し合おうとしている

●景観について

- 採石場などには、2~3メートルの塀がめぐらされていて、景観上も良くないし見通しも悪くしている

●地域コミュニティについて

- 新しく地域に住み始めた人の中には、町会に入ろうとしない人もいる
- 外から移り住んだ者として、町会に入ることはメリットもあると感じている。例えば、色々な地域の情報を教えてもらえる、災害に遭った時に避難所で一緒に行動しやすい、など。そういうメリットを整理しておいて、アプローチすると説得力が増すと思う。また空き家をあ�せんする時にセットで町会加入を勧めるなど、対策してほしい

6 グループ別発表

各グループで出た意見の概要を紹介し、全体で共有しました。

7 専門家の先生からのコメント

意見の総括と、都市計画マスタープランと協働のまちづくりについて、お話をいただきました。

<先生のコメント・お話し>

- 農業をどうしていくかをこの都市計画マスタープランで書くのは、なかなか難しいところなのですが、農業はこの地域の特色でもあり大切な問題です。都市周辺の地域では里山景観や田園景観が貴重だと言われる中で、実際に農業をされている方は苦勞されており、遊休農地や担い手不足などの問題もあり、どうやって活性化していくかは全国的に課題となっています。
- この地域の環境を守りながら、人が住んで、兼業でも農業をしながらやっていくことを目指していく。そういうことを、農の方でも考えていかないといけませんし、都市計画との方とも整合させながらやっていくべきであろうと思います。
- 今日いただいた貴重な意見、農のあり方、沿道のあり方、コミュニティのあり方、人が住んで色んな方が集まってくれるようなそのような地域づくりに、少しでも貢献できるように内容を充実し、これから一緒に取り組んできたいと思います。

8 閉会

今後の予定について、事務局から説明がありました。今回いただいたご意見を踏まえながら引き続き作業を進め、夏ごろをめどにパブリックコメント等の手続きに入ります。

以 上